

## 第 20 回 向陽学府小中一体校開校準備委員会 会議概要

1	開催日	令和 8 年 2 月 25 日 (水)
2	開催場所	磐田市役所西庁舎 3 階 302～303 会議室
3	出席者 (向陽学府小中一体校開校準備委員)	
	学識経験者	元校長 元向笠地区長
	地区代表	向笠地区長 大藤地区長 岩田地区長
	保護者代表	向陽中学校 P T A 代表者 大藤小学校 P T A 代表者 向笠小学校 P T A 代表者 向笠幼稚園 P T A 代表者
	学校代表	向陽中学校長 大藤小学校長 向笠小学校長 岩田小学校長
4	事務局	学校づくり整備課学府一体校グループ長 ほか 2 名 学校教育課グループ長

### 会議概要

#### 1 委員長挨拶

皆さん方は、先日竣工式ということでご出席された方も多数いらっしゃると思います。ありがとうございました。

これから学校周辺の交通事情等をどうやってみんなで見守っていくかっていうことはとても大事なことじゃないかなと思います。

とりわけ令和 8 年度はまだ学校自体の工事が途中になっていますね。そういうことで、スクールバスにしてもどのようにしていくかということもあって、開校まであと 1 ヶ月ですが期待と不安があって、皆さんも同じような気持ちを持っている方もいらっしゃる。

今日は異常気象だとか、災害時の対応等の議題もあるのですがけれども、ぜひいろいろとお考えをいただきたいなと思います。

不安とあと期待ですが、最新の教育環境のことですね、素晴らしい教育がされて、未来を担う子供たちが成長することをなんといっても第一に期待するわけです。それだけでなく、この向陽学府が、地域の魅力の向上にも繋がればいいかなということを思っている次第です。

今日もよろしく願いいたします。

## 2 議事

### (1) 各校登校シミュレーションの実施状況について

(委員長)

それではまずは各校の登校シミュレーションの実施状況ということで、事務局お願いします。

(事務局)

重ね重ね、前日の竣工式にはご参加ご出席いただきありがとうございました。大変良い天候で行われ、本当ありがたく感じております。

本日の議事ですけれども、本会が残すところ2回となりました。今日と次回ということで、もう竣工して、あとは開校を待つばかりというところになってきてはおりますけれども、今日の2点についてはどちらかというところ、事務局側としては、保護者代表の方や学校、地域の中での状況を教えていただきたいというところです。

まず一点目ですが、各小学校で登校のシミュレーションをしていただきました。

私達も各ポイントとなる場所に行かせていただきましたけれども、委員の皆さんの中でも対応していただいた方がいらっしゃいます。実際に登校のシミュレーションをしてみると見えてきたものがいくつかあったということも聞いております。

そういったところ私達も今日伺いながらですね今後のことに生かしていければと思っています。

4月に開校した後にまた協議していく場が出てくると思います。

おそらくそのときには、周辺工事の進捗状況とあわせていろいろなことを考えることになるかと思っておりますけれども、そういった皆様が感じられた部分を教えていただきながら、来年に繋げていければと思っています。

(委員)

それぞれの学校でシミュレーションをやっていますけれども、3小学校が同時にやってないものですから、実際本番がどうなるのかというところを完全にはやはり把握することはできなかったわけです。けれども、その中でも見えてきたことというのはあったかなと思っています。

向笠小学校の場合でいえば、バスについては、教育委員会が想定していた時刻との差は全ての場所がありました。1分から2分の差でした。

到着先として、向陽中のところで新屋原公会堂をお借りしたのですが、1分や2分というのを見てみると、乗る人数にもよるとは思うのですが、何ヶ所か寄ってくるという場所についてはやはり遅れ気味になっていました。1ヶ所の乗降場所から直接中学校のところまで来るという場合は、逆に早く来るというのもありました。

それと、一度来たバスが2便目としてまた次の子供たちを迎えに行行って戻ってくる。それは想定時刻を2分遅れてきたというところです。

歩いて登校する場合については、学校の敷地に着いて、その後昇降口に歩いて行くまで、靴を履き替えるまでに5分くらい見ておけば大体7時50分には学校に入るかなという想

定であったのですが、どのグループも早めに来ました。早いところは5分以上早く着いたかなというところなので、そのあたりの調整を残りの期間でやっていく必要があるかなと感じています。

(委員)

笠梅の状況です。気になったのは、子供たちがバスの到着までの時間に公会堂の周りを走ったり、裏の方まで走って行ったりという姿が結構あったので、それは改めて親たちでもう1回そういうことしないように注意していきたい。

バスが到着してからバスの前を通過して乗り場に行くのか、バスの後ろを通過していくのか、その辺のこのグシャグシャってならないような指導を笠梅の中ではしようかなと話をしています。他の地区もきっと同じような課題があるかなと思いますので、その辺を注意した方がいいのかなと思います。

あとは楽しそうに乗っていたので、良かったと思っています。

(委員)

岩田小学校ですけれども、まず全員がバスということで、当日は地域の方もかなり出ていただいたので、来年度になってからの本番とは状況が大きく違うだろうなと思いましたけれども、ある程度想定した範囲でできたと思います。多少時間が遅れた部分もあるので、基本的には想定した範囲で乗れました。ただ一点だけ、シミュレーションをやった日がすごく寒い日で、公会堂とか地区の施設を借りているところは、ちょっと雨がパラパラしたりしたので、屋根があったり風をしのげるような場所があったりしたのですが、岩田小の前は風を遮るものがなくて、雨や風が強くて寒い日はどういうふうにしていけばいいのかなというのは、やりながら感じたところです。

(委員)

先ほどと同じように、バスに乗り降りする場所で子供の動線が気になりました。ラインを引くとか、動線を指定するなどでできれば良いかなと思いました。

(委員)

大藤小からは、歩いて登校する子とバス通学の子もいたりする中で、地域の力を借りて実現できたのでありがたいです。子供たちの声は先ほどもあったように、やはりバスに乗るのは楽しみという声が多くて、非常に印象はいいですね。

隣のこども園の年長さんを見ていると、すごく小さいと感じます。数ヶ月すると、バスに乗って登校すると思うと少し心配がありました。

あとは、下校がポイントになるなと思います。上級生がいない中で、1・2年生だけで帰ってくる場所があったりすると、こども園のあの年長さんたちが、4月5月にバスに乗って帰っていくっていうイメージもしなきゃいけない。そんなことを思いました。

(委員)

事務局に質問ですけれど、運転手の方はアルコールチェックっていうのはされるのですか。

(事務局)

事業者の決まりの中で、飲酒後は10時間空けるとか、いろいろ決まりがあるものから、そこに対しては大丈夫です。チェックすることを確認しています。

(委員)

向笠で新屋原の公会堂に立っていました。バスを降りてきた子供たちが先生の顔を見たときにすごくほっとした顔をしたのが印象的で、やはりバスに乗る楽しい感情と同時に不安な部分があって来ているなど感じました。

やはり最初の頃は、慣れない通学をしてくる、園児が1年生になって初めて登校するあたりで先生方のご負担が大きくなるかなと感じました。

それから歩いてくるルートが今までと変わってきます。大藤小の方から向陽中の方に歩いてくるところをずっと見てきた中で、大藤ってこんなにいるのだなって思いました。交差点を渡ってくる中で地元の方が増えてくれて、時間を計って秒単位で送り出してくれているというのは聞いていたのですが、あの集団がだんだん向陽中のところに近づいてきたときに、どうやってタイミングよく横断歩道を渡し、右折車両とのやりくりをどうやってやるのかなってというのは心配になっています。それは交通安全協会の方ともお話をさせてもらっています。

もう一点がやはり歩道の狭さで、元々懸念はしていたのですが、自転車が来るので思いやりを持って下りてくれるのですが、かなり歩道が詰まる印象がありました。地域としてはこの話が出た時点で左右に歩道が欲しいよねとかいろいろ言ってきたものの、そこは実際間に合わなかったわけですが、やっぱり子供たちが安全に通学できる部分というところで地域としてもいろいろなことを一緒に考えていかなければいけないなど思いました。

(委員長)

学校周辺の気になるところなど、いろいろとありがとうございます。あえてここはまとめません。

(委員)

シミュレーションと違うかもしれないですが、中学校の方は、来年度に向けてということでシミュレーションでなくて実際に行っています。というのは、自転車通学も自転車の降りる場所を決めていて、北側が清水屋のところ、それから南側がテニスコート駐車場のところで、自転車を降りて、300mくらいありますかね、小学生がこれから来ることを想定して歩いてきます。

それよりも学校周辺ではなくて少し遠くになったときに、自転車通学者が歩行者を抜いていくようなケースが一番危険だと思います。それがなくなればいいなと。

今後、小学校の様子と中学校の様子を見ながら、もしかしたら実際は中学生の登校時間が少し遅くなります

(委員長)

学校の西側の南北道路の歩道が片方だけあるのだけれども、そこは自転車が通行して

もいいということですね。テニスコートの前の方で徒歩通学の子がぞろぞろと結構な人数が歩いているので、歩道では追い抜けないわけですね。

(委員)

事務局が勾坂の中下なのでそこに立ち会ったのですけれど、公会堂がゴミ集積所になっているので、時間がかぶると危ないと感じた。大藤や向笠はどうですか。

(委員)

自治会の方で時間帯に応じて注意を呼びかけたり、バスの転回場所等を自治会長が立ち会ってかなり打ち合わせをしています。今度の3月7日のシミュレーションもありますので、その後細かく調整をしていきます。自治会から各家庭へ情報が下りるのは、各自治会によって総会がありますので、多分そこで皆さん各家庭で参加する中で自治会長から注意喚起があるのではないかと考えています。

(委員)

うちの地区は全員バスですけど、通常ですと通学班の班長さんが整列させるのが今までのパターンでした。普段と違ったものですから並びがまだ決まっていなかった。来年度の新しい1年生が入ったら、通学会を開いてもらって、誰から乗るとか決めてもらって、子供たちにやらせればよいと思いました。

(事務局)

笠梅の方で、動線の課題があったと報告いただきました。

12月にバス利用決定を配ったときに、乗降場所や動線、集まる場所を質問されると思ったものですから、あらかじめ地図をつけさせていただいています。皆さんご覧になったでしょうか、このようなものです。(資料提示)

それと、自治会長会議に出席させていただいて、自治会長も同じ資料で説明しています。

自治会長さんが気にするのは、ご厚意で公会堂をお借りしている中で、先ほど出たゴミ出しの課題とかがありました。車での乗り入れについては、保護者の方にお配りした地図の方に、バス運行の妨げとなるおそれがありますので、自家用車での乗り入れは原則禁止としますということを書いています。

地図は、各乗降場所となっている公会堂等でのバスと児童生徒の動線です。

絶対にバスと子供が接触することがあってはいけませんので、そういった意味で、待機場所と乗り込みの動線については全ての乗降場所で示させていただいています。

(委員)

例えば、子供会があるので、こうやって決めましょうという話し合いの場が持てるのですが、3月28日になります。私が今話を持ち帰って、そういうのを決めた方がいいですよ。他の地域の方たちがどうやってそれを話し合ったりする場があるのかわからないですが。

(事務局)

ありがとうございます。そういうヒントをいただけるとすごく助かるかなと思います。今おっしゃったような場面を、それぞれの自治会単位というか集まる単位で相談して

いただけるとありがたいなという感じはします。実際に個別に声をかけていただいている自治会もあります。

シミュレーション時に想定と違うルートになった場所もありました。それについては徹底していきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

## (2) 緊急時の登下校対応について

(委員長)

それでは、緊急時の登下校対応も大事なことで、最近は大雨への対応もありますので、事務局からまずはお願いします。

(事務局)

事務局よりご説明します。

具体的な方法というよりは、こんなところが変わってくるので考えなくてはいけないだろうということを、事務局としてまとめています。今回でいうとバス運行を委託しているものですから、スクールバスについては事業者と連携してどうしていくかというところになってくるかと思います。

教育委員会としては、お配りさせていただいた「各種警報等の発表に伴う対応基準について」というものがあります。これは向陽中学校のホームページから同じものを引用しています。今、各学校で何かしらの対応が必要などときには、学校判断というところが多いかと思います。やはり現場で素早い判断というところで、例えば翌日台風が来そうだという状況で、学校が休校になりそうだというような状況になったときに、学校から家庭への連絡をしていると思います。

でもどういった連絡をしていくのか、どういった内容を家庭に周知していくのかということ考えたときに、おそらく学府内の各学校間で明日の対応について何かを考えられるんじゃないかなと思います。兄弟関係もあるので、学内の学府長のいらっしゃる中学校とも協議しながらです。台風であれば、翌日の給食の対応をどうしていくかということも教育委員会と検討してお弁当にするのか、その状況を踏まえながら、連絡をしていくというのが今の流れではないかと思います。

例えば登校した後に大雨の状況があって、学区内で浸水域とか土砂崩れが起こっているということが考えられるときに、学校としてはどういったことを考えるかです。おそらく同じように学府内の学校や教育委員会と連携を取りながら、通学ルートを安全に帰せるかを先生方が現地確認して、何時まで留め置いて何時に下校とか、何時頃の状況を見ながらまた連絡しますというような形で、保護者の方にまず安心を伝えるのが先だと思います。特に小学校については低学年もいるということで、集団下校に切り替えるという判断をする状況もあるかなと思っています。

学校教育課にも確認しており、よほどの緊急でない限りは、まず学校判断で地域や保護者の方との協議の中で進めていて、事後の報告を教育委員会にいただくことが多いと聞きました。

その中で考えなくてはいけないのが、向陽学府の通学区が来年度からかなり広い範囲になっていきます。小学校の通学が大きく変わりますし、もしかしたら中学校も若干変更はあるのかもしれませんが。少なくとも通学方法はスクールバスが導入されることによって中小ともに変更されていきます。人数は中学校の人数は増えませんが小学校の人数が3校集まるので増えていきます。

こんなことを考えるときに、この変更がどういった影響に繋がるだろうというのを皆さんのご意見を聞きながら来年に備えたいと思います。

スクールバスの運行は委託をしていますので、事業者とどういった形で連携をとっていくのか。どのタイミングでどう指示していくのか。それはケースバイケースではありませんけれども、今までの、学府内での情報交換は、一体校になることで連携しやすくなるはずで。あとはそこに教育委員会との関り、通学方法が変わることによってバスの委託会社との連携が必要になるというところで子供たちの安全面を第一に考えたときに、どういう仕組みやネットワークを持っておくべきだろうかと考えています。

豊岡北小学校とは利用状況や台数が違いますので同じようにはならないと思っています。

もう一つは学区が広がるというところで、浸水状況などは非常に情報の収集に時間がかかるかと感じているところです。各学校間で、すでに協議されてきている話についても、この後ぜひ教えていただきたいです。

(委員長)

学区が広くなったり通学方法が変わって人数も増えたという中での説明でしたけれども、お気づきの点があればお願いします。

(事務局)

もちろん災害の状況にもよるとは思いますけど、それを基本はバス通学の子はバスで帰らせようと思っています。ですがバスが出せない状況だっておそらくあると思うのです。バスが出せない状況をどうキャッチしていくかということもあります。それは事業者だっただけで当然同じことだと思っています。

(委員)

答えは出てないですけど、何度か学校間で話をしています。資料は磐田市教委から出ている基本的な内容なので、基本はこれに準じて対応していくということになります。

ただ、今は、まだ一体校が完成してないこともあって、駐車場の整備がされていませんからバスのロータリーもまだ途中です。そういうことを考えると、引き渡しのような形になったときに、対応は大変難しくなるので、この基準よりもちょっと場合によっては緩い形で対応していくような考えもあります。一つの方法としては、休校にさせてもらって、タブレットを持ち帰っていますので、自宅での授業という方法が出てくるかなと思っています。

ただ、それについても1年の間で1学期にどれぐらい駐車場が整備されるかとか、工事の進み具合で状況は常に変わってくるので、それに合わせて対応していくという形にな

っています。

それから引渡しとしてバスを使うケースと、使わないケースが出てくると思うのですが、バスを使うケースになったときに、バスが停まっているところまで子供たちがどうやって行くのか。一つ問題で、屋根があるわけではない。その辺が今後詰めていかないといけないのかなと思っています。それから、仮設校舎の隣に大きな駐車場ができていますけれども、そこは職員駐車場ですが、何らかの方法でスペースを空けて保護者の車を停めるようにしたいと考えたときに、やはりその動線をどうするか。昇降口から駐輪場の間を通して、駐車場まで行くときに濡れるのですよね。

(委員)

令和8年度と9年度で状況が違ってくると思うのです。8年度については、4校長で話をしていて、もしバスが動くような状況であれば、8年度中は今の小学校が残っています。向陽小学校に保護者が迎えに来るのはなかなか苦しい状況があるので、もし岩田小、大藤小、向笠小まで送ってくればそこには駐車場は存在しているわけなので、そういう手も考えられる。今、ごめんなさい結論は出てないですけども、そういう点も令和8年度中はできるかなと思います。

令和9年度になれば、駐車場が整備されますので、また違う引渡し方法とか子供たちの安全が確保されてきているのかなというふうに校長同士で話をしていますが、学校運営協議会の方で、防災について部会を作らせていただいて、地域の方の声を聞きながら子供たちの安全安心を第一に検討していかなければいけないところであるかなと思っています。

(委員長)

バスは事業者と柔軟な対応をしていただきたいが、その辺の運行が可能かどうかという話にもなる。いずれにしても子供たちの安全が第一の話になるじゃないですかね。やっていただける分にはありがたい。

(委員)

子供たちが登校するまでに、この方針を固めるのですか。それとも、その時々で判断せざるを得ないのか。

(委員)

そこまではまだ決まってないですけど、その状況によつての判断の余地はある。

(委員)

非常時に子供たちがどうなるか、方針が決まらないまま登校させるということなのか。

(委員)

まず、例えば台風とかでしたら、もう危険が迫っているわけなので、事前にお休みすることができるのですね。

一番心配しているのは線状降水帯ですね。そのときにどうするか。それは今言ったように工事の進み具合とか、そのところでどういうふうにするか、何らかの方法で協議して

決定します。

(委員)

先ほど、例えばバスで元の小学校に送るパターンを想定した場合ですけれど、心配はもつともだと思います。4月5月は駐車場が少なく、子供たちも慣れてない状況がどうなるのか、親として一番心配なところだと思います。例えば小学校の方に戻ってくるとなったときに、子供たちは引き渡しまでそこにいる想定の家となっているのでしょうか。来年は、普段の施設管理は学校づくり整備課さんが行き、地域でも指定避難所として使えるとは聞いているものの、今までみたいに先生たちが普段生活している状態ではなくなる中でどうやって施設の維持をしていくのか心配なところですよ。

なので、バスで移動した子供たちは校舎で待つのか、交流センターの大人の目があるところで待つのか、その辺の想定があるならば、地域でも難しいところが出てくるので、来年になる前に知りたいところかなと思います。

(委員)

もし本当に今ある3小学校に送っていく場合は、学校の職員だっけ一緒に行くことにはなりません。

どこが使えるかは、また学校づくり整備課に聞かなければわからないところもありますけれども、外で待っているということは絶対にないと思います。

(委員)

線状降水帯が発生しているので、子供たちを速やかに帰らせたいという状況になるということですね。

(委員)

まずは、安全が確認できるまで留め置いておきます。

(委員)

あとは学校に留め置いたあと、バスが動いてないという状況であっても状況が回復すれば徒歩通学の子は歩いて帰るだろうし、安全な地域から子供たちを迎えに来てもらいたいという状況も出てくると思う。そうしたら時間がかかってもやるしかないですよ。

職員駐車場の職員の車を動かすようにして、そこへ地域ごとに、まずどこの地域というのは連絡を流したりして迎えに来てもらうということ、時間がかかってもやる個人的には思っています。

(委員長)

時差を設けて迎えを呼ぶということですね。

(委員)

はい。駐車場がそのときにどれだけ使えるのかによっても変わってくると思います。

(委員)

どちらにしても、そういうふうな災害が予想されるときには、自宅待機にするのか、休校にするかということです。災害のときに、通学途中の安全をどう確認するか、その後の対処をどうするかということになるかと思っています。あんまりここでみんな議論しても

なかなか結論はでないと思いますので、やはり基準の中で判断をしっかりとってもらうということになると思います。

そして帰りは時間差で動けばとなるし、車での迎えの場合も地区によって時間差を設けると工夫をしていただければということです。

(委員)

考えれば考えるほどいろんなことがあって、工事の進捗状況で全く状況も変わってくるということの一つ一つが詰めていても、ちょっとそれは無理がある。警報に対する基準があるように、この内容で校長先生の責任で決めていただくということになる。その後からバスを動かす、動かさないというのは、担当者が具体的にいるので、こちらの会で全部やるわけにいかない。そういうのは担当で決めていただいて、学区の状態を知らなければいけないときにはどこから情報を取るのか大まかなところをまず決めていただいて、あとは校長先生が言ったみたいになります。

バスが出て地元の学校まで届けたら、その後の引き渡しをどうするかは、また具体的に先生方でお話いただいて報告をいただければ良いので、大まかなところからいきませんか。

前回の時は線状降水帯に入って警報注意報が出て、下校時刻になったら晴れちゃったとかある。状況が全く変わるので、そのときに多くの学校はみんな歩いて帰ってもよかったですでしょうけど、まだ岩田地区方は用水路が一杯で、子供を帰したら危ないという状態でした。その時は、先生方がついてきてくれて集団下校したとか、みんな状況が違うので、細かいことは今ここで言っても仕方ないので、大まかな状態で、責任者の方、校長先生にお任せして、各々の工事の進捗状況に合わせて決めていただくようにした方がいいじゃないですか。

(委員長)

基本的にこういうものの対応基準は、教育委員会と学校サイドで基本線を作り、そしてそれぞれの学府とか学校で地域の状況も違うものだから、それによってまた対応が少しずつ変わる。とりわけ向陽学府の場合には、令和8年9年と状況が変わるという、また複雑なことですよ。

(委員)

現場で対応してもらえないですね。

(委員)

今までは、大雨が降って冠水した場合は、校長先生、教頭先生に連絡して、隣の園長先生に連絡してみたいな流れですけど、それはもう、向陽学府小中一体校の場合は4月になれば担当者の方が決まってそこに電話をするイメージですか。

(委員)

そうですね。

(委員)

でも保護者も心配で電話をかけたら電話が混雑しないですか。そこは人数が増える分

大丈夫ですか。心配性で電話を入れてもいいのかなっていつも迷いながらやっているのです。

(委員)

すいません、この辺はまだ詰めてないのでなんとも言えないですけども、例えばコードモンの連絡は取れるようになっている。いろいろな方法もあるかもしれないし、まだ申し訳ないですけど全部の対応はここで言えないですよ。いろんな条件が揃ったところでの対応となります。バスの方も契約の問題でどうなってくるかという状況で、バスを使うということも実際、強く言えるわけでもないし、市教委の基準だと6時30分の段階で判断となっていますが、6時30分の段階だとバス待ちの子供たちは家から出る準備もあるので、その辺の判断の時間は早くしたりという検討はしています。

(委員)

ただ現場ですよ。現場は別に信じていないわけじゃないです。でも結局、蓋を開けたら決まっていなことがポロポロ出てくるのはもう目に見えていますよね。開校が早かったんじゃないかと思えます。心配を解消してから開校しませんかということです。今おっしゃるように、災害が起きてからではないと分からないのなら、決める必要ないじゃないかとなる。

(委員長)

いろいろ課題ありますよね。極力、保護者の不安を少しでもなくしたり理解を促していくようなことは、これは教育委員会と学校の方で対応せざるを得ない状況だと思う。

(委員)

このガイドラインというか、それが定まってない状態で開校するのは今までに普通にあることなのですか。

(事務局)

今言っているガイドラインは向陽のガイドラインですね。

(委員)

そうじゃない。そんなのじゃなくてこういう非常災害時にどういうふうな動きをするかっていうことが明確じゃないまま開校するということは、普段あり得ることかということですか。

(事務局)

それはあり得ないと思います。この資料は基準なので、この基準に沿って開校していきます。

それがそれぞれの学校の状況や地理的な条件の中で、細かな部分で決まりややり方を決めていって進めて行くこととなります。

(委員)

これは教育委員会のガイドラインじゃないですか。それぞれの学校としてはこういう動きをするっていうのは、別に学校としてそれぞれ用意しているわけではないのか。

(委員長)

市の方針、基準に基づいてそれぞれの学校が作っているのですよね。

(委員)

学校がそれを作っていない状態で4月を迎えるっていうことはあり得るのか。

(委員長)

ある程度きちっと作らないといけない。

(委員)

ですよね。さっき聞いた話だと、4月にはないという感じだったのでそうなのかと思って。

(委員)

ある程度の議論は4月には間に合わせないといけない。と言うよりも、4月の段階と、7月の段階では、状況が変わって対応が変わってくるということです。

(委員)

では4月までに教育委員会と協議していただいて、そこを固めていくっていうことですね。わかりました。

(委員長)

はい。その辺のことを進めていただきたい。事務局と学校にお願いすることになりますが、いろいろ大変な中ですがよろしいですか。

(事務局)

バスの契約のこととか、また確認しておきます。どういった形になっても、当然ながら子供の命最優先なので、無理に帰すことはないというのは当然だと思います。その中で、一番安全な方法はこういった形かかっていうところを考えていきたいと思います。

(委員長)

議題につきましては終わり、これで進行は事務局にお返しします。

### 3 連絡事項

※事務局より、3月7日開催予定のスクールバス乗車体験会について説明

- ・当日のバス運行スケジュール、申込み人数
- ・保護者アプリ「コドモン」の案内
- ・スクールバス乗車証 ほか

### 4 その他（報告・確認事項）

※事務局より、2月14日の竣工式・内覧会、各小学校の閉校式について報告

(事務局)

次回、3月24日に準備委員会の最終回を迎えたいと思います。教育長からそのときにご挨拶させていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 5 閉会

(事務局)

それでは、時間を過ぎましたが、以上で第 20 回の開校準備委員会を終了します。